

EDI-2024年問題の解決策とは？

固定電話の公衆電話網がIP網へ移行されることによって起こる「EDI-2024年問題」。
本資料では、EDI-2024年問題の概要から、その解決のポイントまでを説明します。

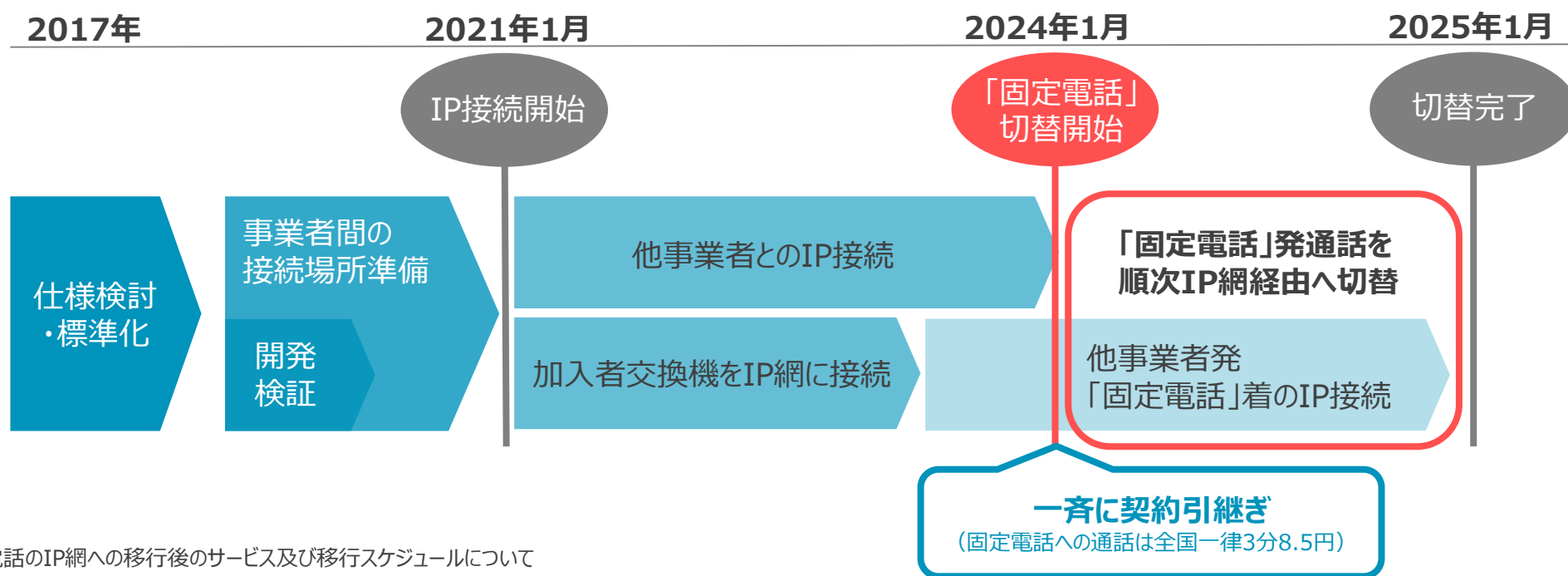
内容

1. 「EDI-2024年問題」とは
2. 「EDI-2024年問題」に必要な対応
3. インターネットEDI一覧
4. その他必要となる対応
5. システム選定のポイント
6. Biware EDI Station 2の特長
7. 社内システムとのシームレスな連携

1. 「EDI-2024年問題」とは

固定電話の公衆電話網がIP網へ移行されることによってEDI取引に影響が出ることを「EDI-2024年問題」といいます。具体的には2024年1月から移行が順次発生し、2025年1月には移行が完了する予定です。それにより、加入電話・INSネットを利用したEDIが影響を受けることとなります。

<IP網以降スケジュール>



出典：固定電話のIP網への移行後のサービス及び移行スケジュールについて

2. 「EDI-2024年問題」に必要な対応

EDI-2024年問題に対応するには、EDIをインターネットEDIへ移行する必要があります。

異なるシステム間ではデータをやり取りしづらいWeb-EDIに対し、世界共通のインフラを使っているインターネットEDIは今後急速に普及すると考えられています。

インターネットEDIへの移行メリットとしては、「大容量データを高速転送可能」「グローバル対応」のほか、回線や機器が不要なため「低コスト」であることなどが挙げられます。

大容量データを
高速転送



グローバル
対応



低コスト
(回線・機器不要)



3. インターネットEDI一覧

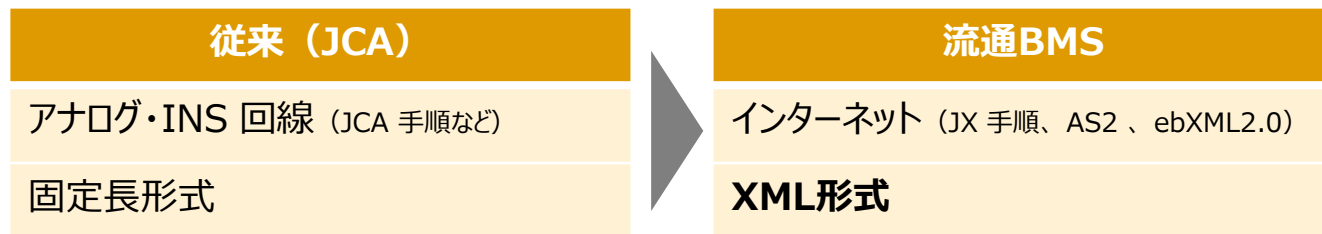
通信プロトコル	採用業界など
JX手順	<ul style="list-style-type: none">● 流通BMS（流通BMS協議会）● ZEDI（全国銀行資金決済ネットワーク）● ファイネット（酒類・加工食品業界）● プラネット（日用品・化粧品業界）● MD-NET（日本医療機器ネットワーク協会）● PEDIAS（日本医薬品卸売業）
EDIINT AS2	<ul style="list-style-type: none">● 流通BMS（流通BMS協議会）● JD-NET（医薬品業界）● NHI（医薬品業界）● グローバルEDI
ebXML MS2.0	<ul style="list-style-type: none">● 流通BMS（流通BMS協議会）● グローバルEDI
ebXML MS3.0	<ul style="list-style-type: none">● JEITA（電子情報技術産業協会）
全銀TCP/IP 広域IP網	<ul style="list-style-type: none">● JD-NET（医薬品業界）● NHI（医薬品業界）● 化学業界EDI（石油化学工業協会）

4. その他必要となる対応

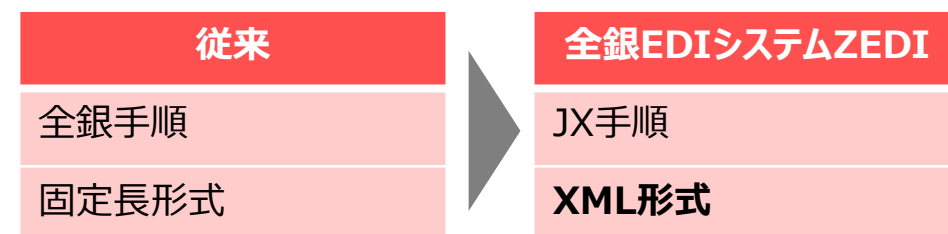
各業界の動向をみると、従来のアナログ回線からインターネット回線への切り替えだけでなく、XMLのデータフォーマットへの変更もあることがわかります。

インターネットEDIに対応するだけでなく、あわせてXMLの業界標準フォーマットへの対応も必要になります。

●流通業界



●金融業界



●その他業界

業界	業界団体・VANサービス	フォーマット
IT・エレクトロニクス	一般社団法人電子情報技術産業協会 JEITA	XML (ECALGA)
医療用医薬品	医薬品受発注ネット協議会 (PRO NET 協議会)	XML (PEDIAS)
食品軽包装	協同組合ハウネット (HOWNET)	XML (ハウディス)

5. システム選定のポイント

EDI-2024年問題対応のためのシステム導入に際してポイントとなるのは、①マルチプロトコルに対応しているか、②業界標準フォーマット対応しているか、③短期構築が可能か、の3点です。

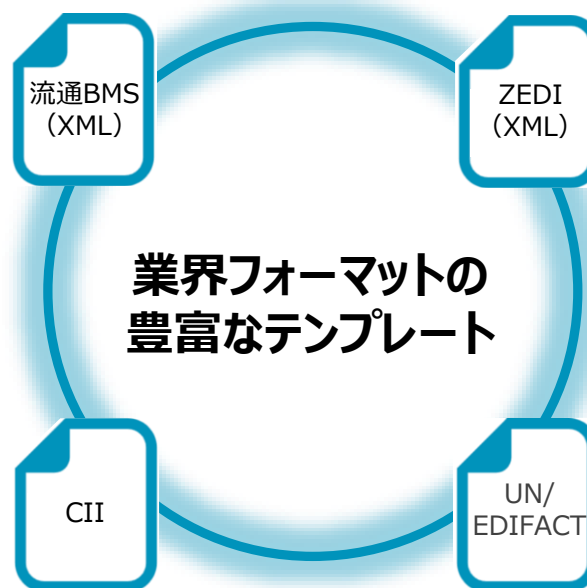
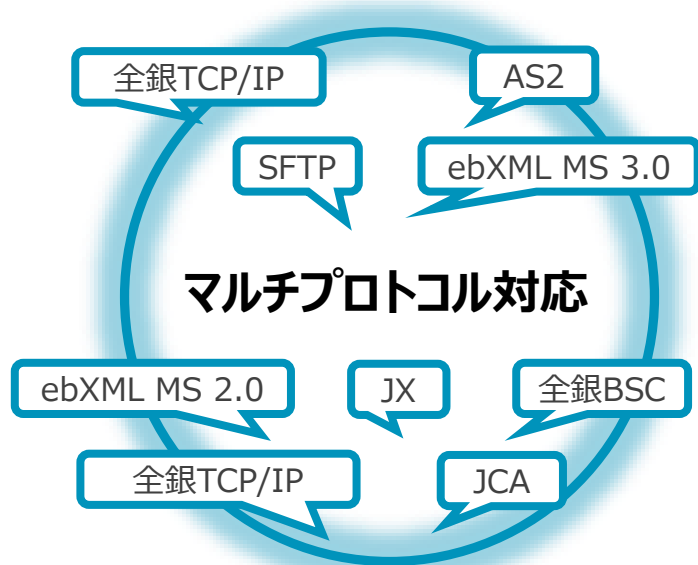
取引先のスケジュールが優先され早期対応が必要なケースでは、いかに早く取引先の通信に対応するかがカギになります。



6. Biware EDI Station 2の特長

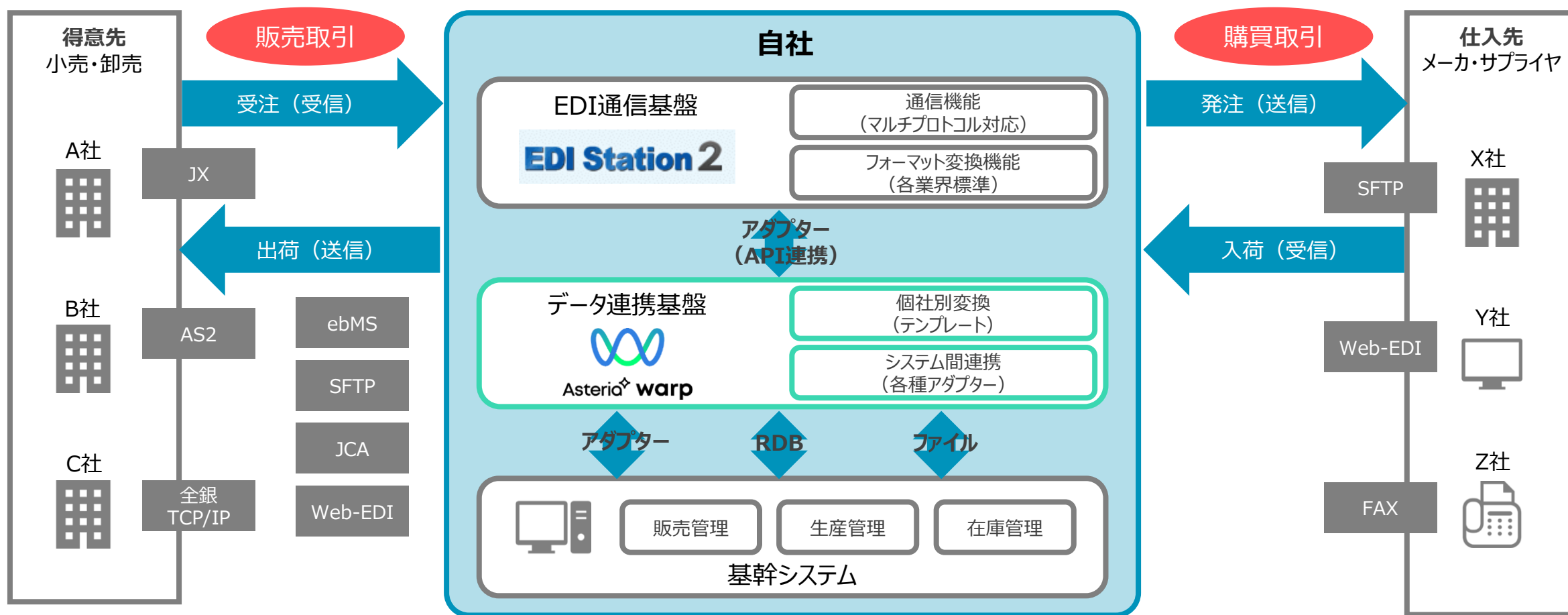
EDI統合管理システムBiware EDI Station 2なら、これらの課題に対応可能です。

取引先によって通信手順が異なっても、マルチプロトコルに対応しているため問題なく通信を行うことができます。業界フォーマットのテンプレートも豊富にご用意しており、またノンプログラミングで構築が可能のため、取引先の急な通信手段・テンプレートの変更にも素早く対応できます。



7. 社内システムとのシームレスな連携

さらに、EAIツールASTERIA Warpと連携すれば、社外との取引だけでなく、社内システムとのシームレスな連携が可能になります。ノンプログラミングでGUIベースのアイコンを並べることで、連携部分を簡単に開発できることが、両製品共通の特長です。



「EDI-2024年問題の解決策」や「社内システムとのデータの受渡しに」など、あらゆる疑問にお答えする

「**オンライン無料個別相談**」を実施しています。

ぜひ、お気軽にご相談ください。



[オンライン無料個別相談を申し込む](#)

お問い合わせ先

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

E-mail : sales-pisc@ml.jp.panasonic.com



※本資料に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。